

連合小児発達学研究科

学位プログラム： 小児発達学

授与する学位： 修士（小児発達学）、博士（小児発達学）

教育目標

大阪大学の教育目標を受けて、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科では、医学、心理学、保健学/看護学、教育学及びそれらを基盤とする学際領域を対象とし、国際的視点も有する教員、研究者が各々の専門領域を超えて連携し、文理融合型の共通したプラットフォームを用いて教育にあたり、異なる出身履歴を持つ学生が共に学び研究することにより、真に学際的で、柔軟な発想のもと、「子どものこころの障がい」に、最先端かつ高度な専門性と深い学識をもって対応でき、国内外の社会の新たな要求にも応うるリーダーたる研究者・指導者層、高度専門家の育成を目指しています。

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

真に学際的で、柔軟な発想のもと、「子どものこころの障がい」に、最先端かつ高度な専門性と深い学識をもって対応できる。

○高度な教養

国内外の社会の新たな要求にも応うるリーダーたる研究者・指導者層、高度専門家の育成を目指している。

○高度な国際性

国際的視点も有する教員、研究者が国内外の社会の新たな要求にも応うるリーダーたる研究者・指導者層、高度専門家の育成を目指している。

○高度なデザイン力

真に学際的で、柔軟な発想のもと、「子どものこころの障がい」に、最先端かつ高度な専門性と深い学識をもって対応でき、国内外の社会の新たな要求にも応うるリーダーたる研究者・指導者層、高度専門家の育成を目指している。

○独自の教育目標

医学、心理学、保健学/看護学、教育学及びそれらを基盤とする学際領域を対象とし、教員、研究者が各々の専門領域を超えて連携し、文理融合型の共通したプラットフォームを用いて教育にあたり、異なる出身履歴を持つ学生が共に学び研究することにより、真に学際的で、柔軟な発想のもと、「子どものこころの障がい」に、最先端かつ高度な専門性と深い学識をもって対応でき、国内外の社会の新たな要求にも応うるリーダーたる研究者・指導者層、高度専門家の育成を目指している。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

博士前期課程

大阪大学のディプロマ・ポリシーのもとに、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究所では、以下を身につけた学生に、修了要件に基づき審査等を行い、学位「修士（小児発達学）」を授与します。

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

「子どものこころと脳発達及びその障がい」に関する幅広い知識・技能と、課題解決にその知識・技能を活用できる学識

○高度な教養

子どものこころの課題の解決に対して、経験則にとらわれない、様々な背景に基づく知識と客観的に評価できる科学的視点

○高度な国際性

幅広い知識と国際性及び教養

○高度なデザイン力

社会・学問における課題に対し、解決の道筋を構想することのできるデザイン力

○独自の学習目標

協調性・柔軟性を有し、現在の社会の要求に応える力

博士後期課程

大阪大学のディプロマ・ポリシーのもとに、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究所では、以下を身につけた学生に、修了要件に基づき審査等を行い、学位「博士（小児発達学）」を授与します。

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

「子どものこころと脳発達及びその障がい」に関する高度な知識・技能と、本質を見極め課題解決にその知識・技能を活用できる深い学識

○高度な教養

子どものこころの課題の解決に対して、経験則にとらわれない、異なる背景の専門性を抛りどころとする幅広い知識と複眼的・俯瞰的に思考し、客観的に評価できる科学的視点

○高度な国際性

異なる言語・文化を深く理解し、それらの相違を超え、広く交流しながら、高度で幅広い知識を

もって、複眼的、俯瞰的に思考し、多角的に評価できる国際性及び高度な教養

○**高度なデザイン力**

社会・学問における本質的かつ複雑多様な課題を発見し、様々な分野の人と協働して、意欲的に解決の道筋を構想することのできる高度なデザイン力

○**独自の学習目標**

協調性・柔軟性を有する真に学際的で現在の社会の要求に応えうるリーダーシップ

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

博士前期課程

大阪大学のカリキュラム・ポリシーのもとに、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科では、異なるバックグラウンドを持つ学生に文理融合プラットフォームによる教育を実施し、文化を超えた世界的課題でもある「子どものこころの障がい」に対応できる視野と基礎知識を身につけ、また、専攻分野に関連する諸領域の学識及び基礎的研究技術を修得できるよう指導を行います。

授業は、基礎学力を担保するための講義形式の科目、支援や研究の現場において研究技法を学び、実際の研究へと応用できる技術の修得を目指す実践的な科目、研究の現場で、論文作成について学ぶ科目からなります。他大学で開講される科目はTV会議システム等を活用し受講します。

<教育課程編成の考え方>

専門科目では、修士論文をまとめるため、選択した研究課題について取り組み、指導教員からの最先端かつ高度な知識をもって良質な指導を受ける。

<学修内容及び学修方法>

（１）導入科目

異なるバックグラウンドを持つ学生に対して、基礎演習科目や専門科目における基礎学力を担保するために講義形式を設定する。

（２）基礎演習科目

所属校で研究技法を学び、実際に研究へ応用し、指導を受ける。

（３）専門科目

各講座の指導教員の下で、論文作成について学ぶと同時に、支援や研究の現場において研究技法を学び、実際の研究へと応用できる技術の修得を目指す。

<学修成果の評価方法>

学修の成果は、単位認定について、授業の出席状況をはじめ、レポート・試験等を課し、一定の成績を収めた学生に対して単位を認定している。

博士後期課程

大阪大学のカリキュラム・ポリシーのもとに、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科では、異なるバックグラウンドを持つ学生に文理融合プラットフォームによる教育を実施し、文化を超えた世界的課題でもある「子どものこころの障がい」に対応できる国際的にも通用する幅広い視野と基礎知識を身につけ、また、専攻分野に関連する諸領域の学識及び基礎的研究技術を修得できるよう指導を行います。

授業は、基礎学力を担保するための講義形式の導入科目、支援や研究の現場において実践的学習を行う演習科目、論文作成を目指す高度専門科目（研究指導）からなり、他大学で開講される導入科目はTV会議システムにて受講し、演習科目では開講される大学へ移動して受講すること

により、非常に広汎な知識の修得を目指します。さらに高度専門科目では、博士論文をまとめるため、選択した研究課題について取り組み、指導教員からの最先端かつ高度な知識をもって良質な指導を受けます。

<教育課程編成の考え方>

高度専門科目では、博士論文をまとめるため、選択した研究課題について取り組み、指導教員からの最先端かつ高度な知識をもって良質な指導を受ける。

<学修内容及び学修方法>

(1) 導入科目

異なるバックグラウンドを持つ学生に対して、演習科目や高度専門科目における基礎学力を担保するために講義形式を設定する。

(2) 演習科目

実際に開講される大学に赴き受講し、また、高度臨床・研究の実践の場やカンファレンスにも参加する。

(3) 高度専門科目

各講座の指導教員の下で、定期的に講座のゼミナールに出席して専門知識を深めると同時に、選択した研究課題について臨床・基礎研究を行って、博士論文をまとめる。

<学修成果の評価方法>

学修の成果は、単位認定について、授業の出席状況をはじめ、レポート・試験等を課し、一定の成績を収めた学生に対して単位を認定している。また、5大学合同の研究（計画・進捗）発表会への出席・発表が単位認定に必須としている。

連合小児発達学研究所博士前期課程 カリキュラムマップ

	配当年次1年		配当年次2年		
	春夏学期	秋冬学期	春夏学期	秋冬学期	
教養	高度教養教育科目※大阪大学他研究科開講科目(修了要件外)				修士論文
専門性 (専門教育)	導入科目(18単位(必須科目4単位含む))				
	○生命倫理学【必須】 ○研究基礎技法【必須】		●生命科学系 科目 ●医療系 科目 ●社会・心理系 科目		
	基礎演習科目(3単位)	基礎演習科目(3単位)			
			専門科目(3単位)	専門科目(3単位)	
			●生命科学系科目 ●医療系科目 ●社会・心理系科目		
		基礎特論科目	基礎特論科目		
デザインカ	研究(計画・進捗) 発表会(参加)		研究(計画・進捗) 発表会(参加)	研究(計画・進捗) 発表会(参加)	
国際性	国際性涵養教育科目/マルチリンガル教育センター開講科目 ※大阪大学他研究科開講科目(修了要件外)				

<学修成果の評価方法>

学修の成果は、単位認定について、授業の出席状況をはじめ、レポート・試験等を課し、一定の成績を収めた学生に対して単位を認定している。

<ディプロマポリシーに掲げた学習目標>

- 教 養:** 子どものこころの課題の解決に対して、経験則にとらわれない、様々な背景に基づく知識と客観的に評価できる科学的視点
- 専 門 性:** 「子どものこころと脳発達及びその障がい」に関する幅広い知識・技能と、課題解決にその知識・技能を活用できる学識
- デザインカ:** 社会・学問における課題に対し、解決の道筋を構想することのできるデザインカ
- 国 際 性:** 幅広い知識と国際性及び教養

連合小児発達学研究所博士後期課程 カリキュラムマップ

	配当年次1年		配当年次2年		配当年次3年		博士論文
	春夏学期	秋冬学期	春夏学期	秋冬学期	春夏学期	秋冬学期	
教養	高度教養教育科目※大阪大学他研究科開講科目(修了要件外)						
専門性 (専門教育)	導入科目(必修10単位)		演習科目(必修8単位)				
	●生命科学系 科目		●生命科学系科目 ●医療系科目 ●教育・心理系科目				
	●医療系 科目		高度専門科目(必修12単位)				
	●教育・心理系 科目		●生命科学系科目 ●医療系科目 ●教育・心理系科目				
デザイン力	/	研究(計画・進捗)発表会	研究(計画・進捗)発表会<必須>	/	研究(計画・進捗)発表会<必須>	/	
国際性	国際性涵養教育科目/マルチリンガル教育センター開講科目 ※大阪大学他研究科開講科目(修了要件外)						

<学修成果の評価方法>

学修の成果は、単位認定について、授業の出席状況をはじめ、レポート・試験等を課し、一定の成績を収めた学生に対して単位を認定している。また、5大学合同の研究(計画・進捗)発表会への出席・発表が単位認定に必須としている。

<ディプロマポリシーに掲げた学習目標>

- 教 養:** 子どものこころの課題の解決に対して、経験則にとらわれない、異なる背景の専門性を振りどころとする幅広い知識と複眼的・俯瞰的に思考し、客観的に評価できる科学的視点
- 専 門 性:** 「子どものこころと脳発達及びその障がい」に関する高度な知識・技能と、本質を見極め課題解決にその知識・技能を活用できる深い学識
- デザイン力:** 社会・学問における本質的かつ複雑多様な課題を発見し、様々な分野の人と協働して、意欲的に解決の道筋を構想することのできる高度なデザイン力
- 国 際 性:** 異なる言語・文化を深く理解し、それらの相違を超え、広く交流しながら、高度で幅広い知識をもって、複眼的、俯瞰的に思考し、多角的に評価できる国際性及び高度な教養